

生野菜に対する心理的安全性評価の プロセス



－事件事故の記憶の影響とその対応－

高橋 克也

1. はじめに

- ・安全・安心な食品提供のために、生産者や流通・加工業者に求められること

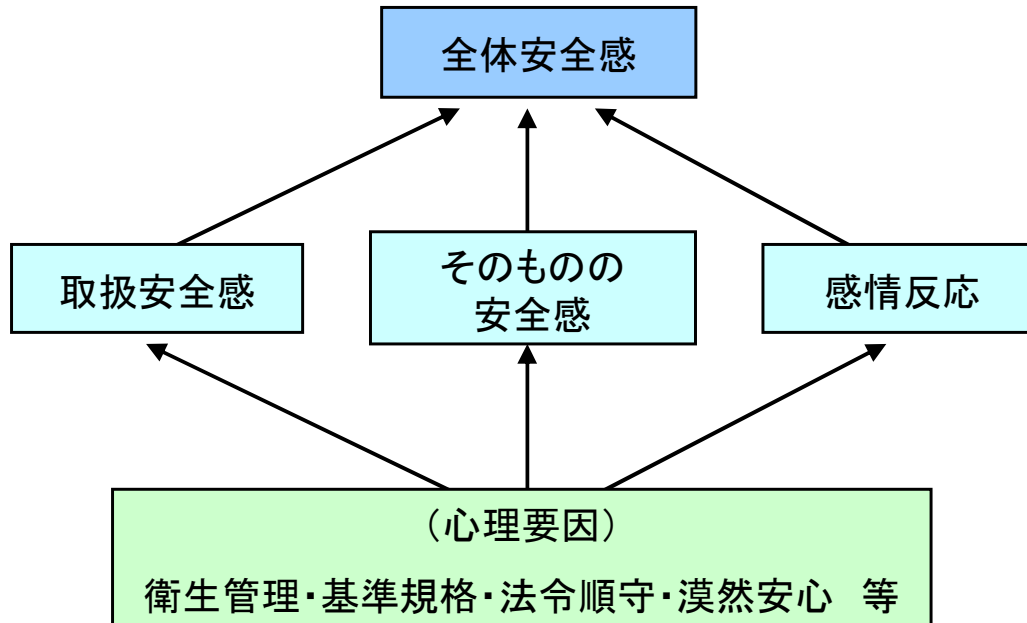
1. 科学的リスク管理の徹底
2. 消費者の信頼確保

- ・報告では、2のうち食品を安全と思う気持ち(安全感)に重点
- ・目的1: FS各主体の安全感の形成要因とは？
- ・目的2: 事件事故の記憶の影響、法令順守の役割とは？

2-1. 安全感の形成要因

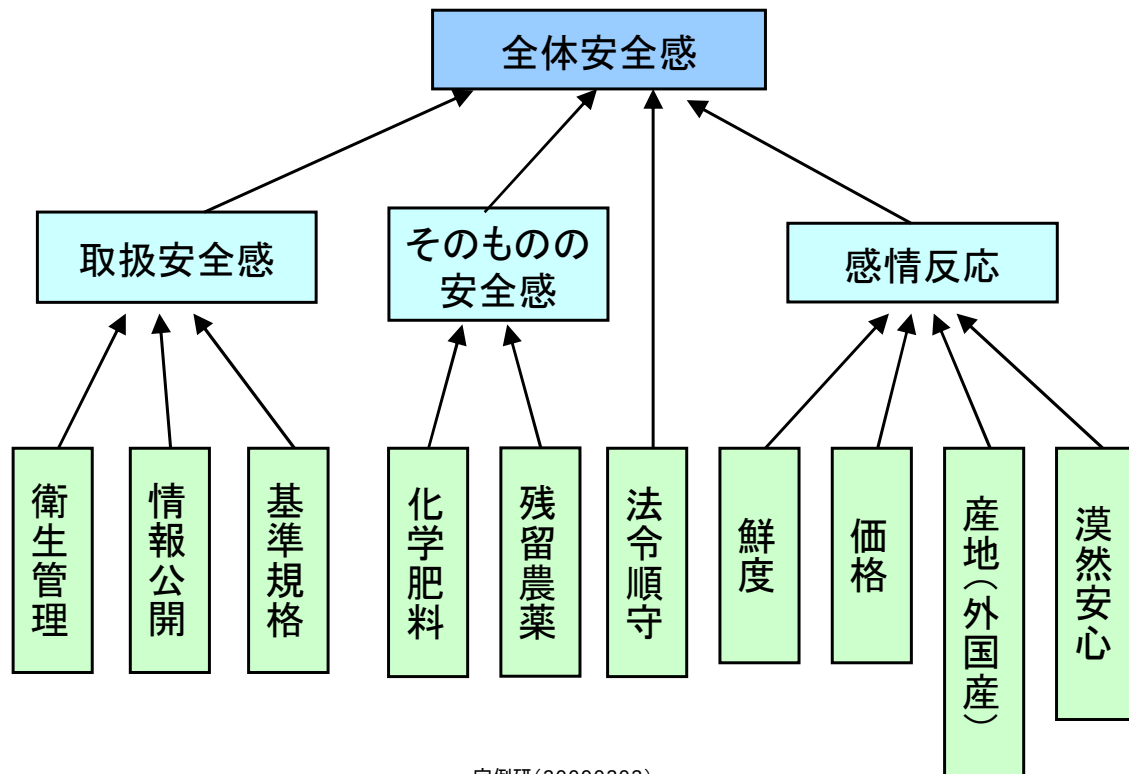
- ・消費者を含むFS各主体の安全感はどう形成されるのか
 - ・・・以下のような仮説をたてる(2-2図参照)
- ・安全感の3要素
 - 取扱安全感 ・・・手元に届くまで安全に取り扱われてきたという気持ち
 - そのものの安全感 ・・・商品の品質そのものが安全という気持ち
 - 感情反応 ・・・好き嫌い
- ・それぞれの要素の構成として
 - 衛生管理 ・・・きちんと衛生管理されているという気持ち
 - 基準規格 ・・・基準や規格が守られているという気持ち
 - 法令順守 ・・・生産から流通まで法令が順守されているという気持ち
 - 漠然安心 ・・・何となく安心できるという気持ち

2-2. 安全感の構造(仮説)



注) 矢印は影響を与える方向を表す

2-3. 安全感の構造(仮説)



定例研(20090203)

3.仮説の検証

- ・安全感の形成要因と構造を検証するため「生野菜」を対象にアンケート調査を実施し分析

（生野菜 … サラダなどで生食するもの、加熱しないで食べる野菜、カット野菜や中食・外食での消費されるものも含む）

- ・調査概要

約40項目の心理要因からなるアンケート調査を実施

対象は消費者、流通加工業者、生産者

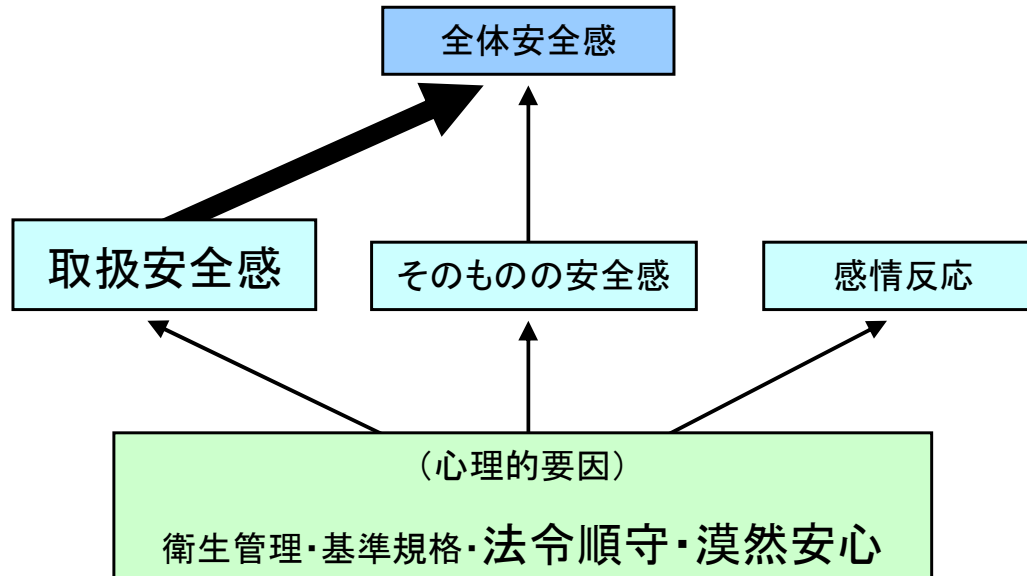
データ数は1,235(2005年、4-1図)、1,022(2007年、6-1図)

- ・分析方法

因子分析 → 心理的要因を抽出

共分散構造分析 → 心理要因の因果関係と影響度

4-1. 消費者の安全感の構造(分析結果・図)



- 注) 1. 矢印の太さが影響の大きさを示す
2. 心理的要因のうち太字は影響がより大きいことを示す
3. 2005年の分析結果

4-2.消費者の安全感の構造(分析結果・説明)

- ・安全感の構造はシンプル

- 複雑な要因を考えずに安全を判断する傾向がある

- ・取扱安全感を重視

- 「安全に取り扱われていると思う気持ち」が安全感をもたらす

- ・心理要因は、衛生管理、基準規格、法令順守、漠然安心

- 消費者が重視する要因はこの4点に集約される

- ・法令順守、漠然安心の影響が大きい

- 「法令が順守されていると思う気持ち」

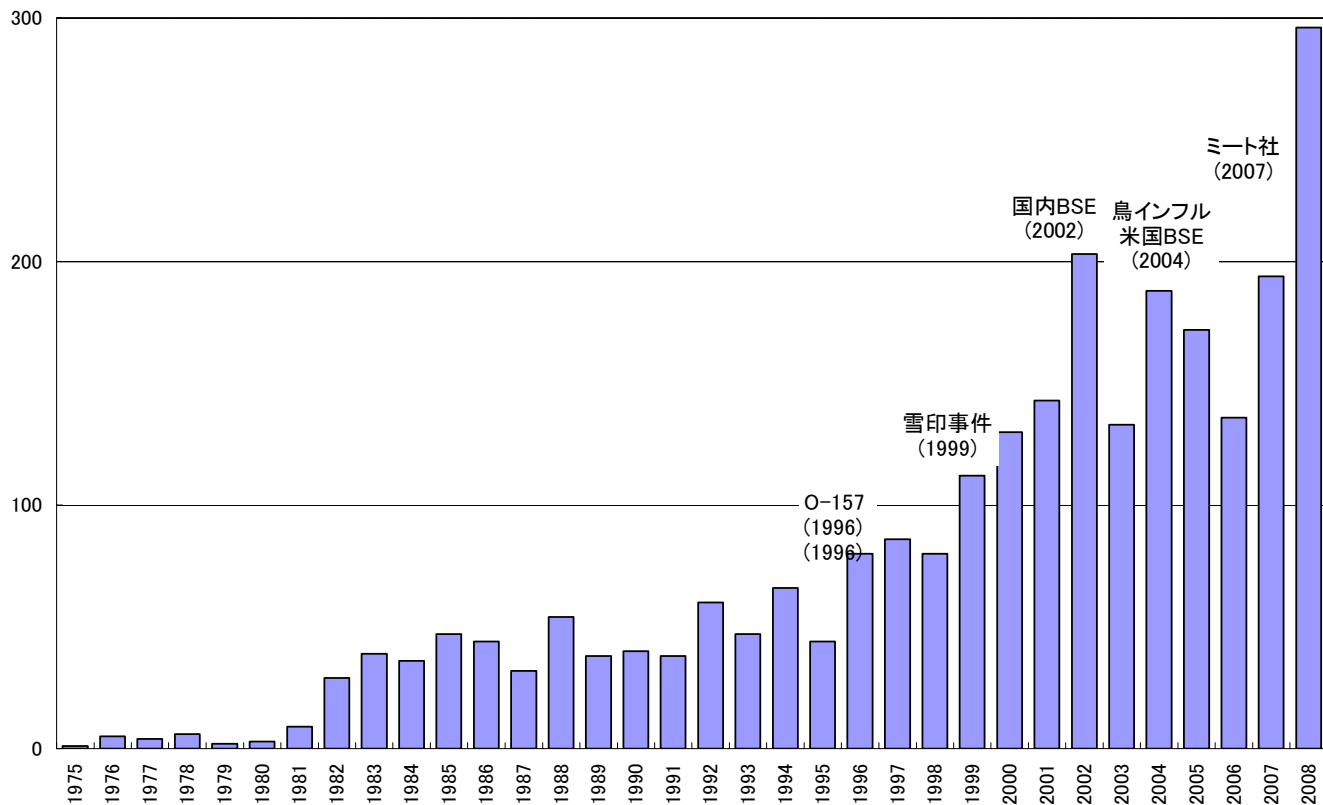
- 「何となく安心と思う気持ち」が安全感につながっている

- ・好き嫌い(感情反応)と安全感は別

5.取扱安全感の形成要因

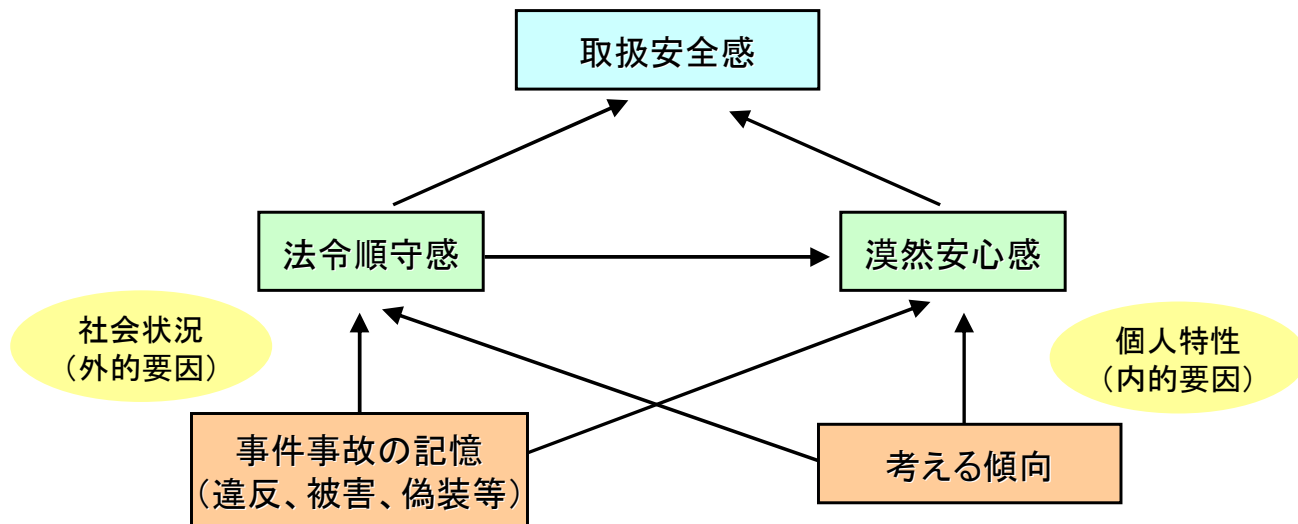
- 安全感に影響する取扱安全感はどう形成されるのか
 - …以下のような仮説をたてる(5-2図参照)
- 取扱安全感の2要素
 - 法令順守感 …生産から流通までちゃんと法令を守って
取り扱われているという気持ち
 - 漠然安心感 …何となく安心できるという気持ち
- それぞれの要素の構成として
 - 事件事故の記憶 …偽装偽称、法令違反、健康被害
 - 考える傾向 …考えるのが、好きか嫌いかの個人的傾向

5-1. 安全感と事件事故の記憶



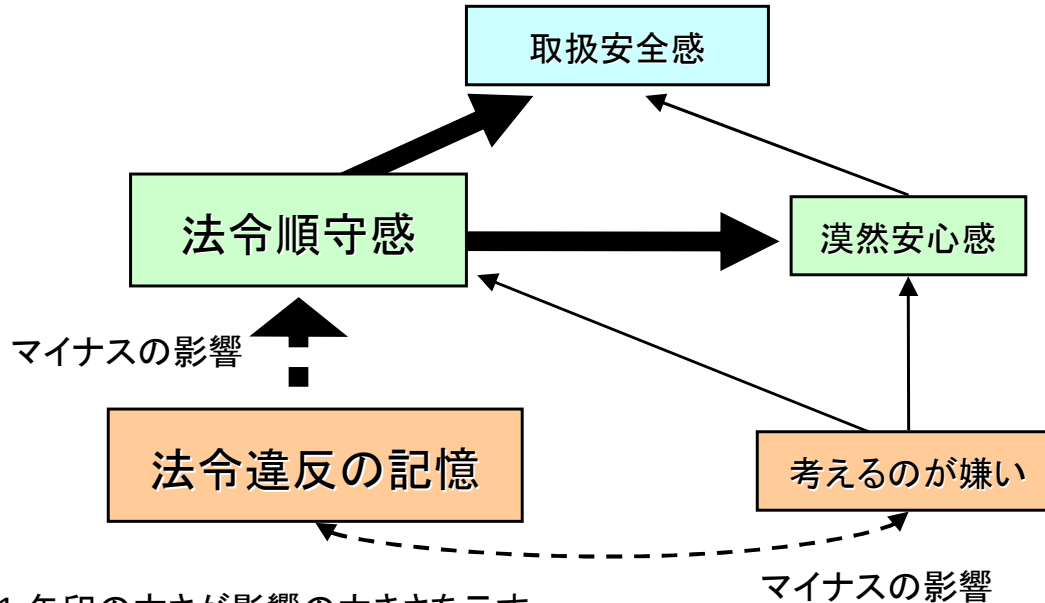
註：日経朝刊（食+安全-etc）
（1975/01/01-2008/10/22, 2597件）

5-2. 取扱安全感の構造(仮説)



注) 矢印は影響を与える方向を表す

6-1.消費者の取扱安全感(分析結果・図)



- 注) 1. 矢印の太さが影響の大きさを示す
2. 点線はマイナス方向の影響を示す
3. 2007年の分析結果

6-2.消費者の取扱安全感(分析結果・説明)

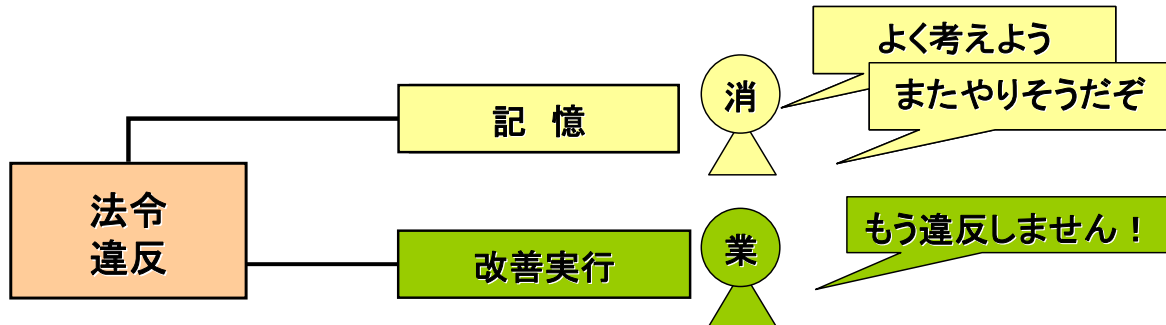
- ・取扱安全感には法令順守感が強く影響
- ・法令違反の記憶が法令順守感にマイナスに影響
 - 違反記憶があるほど、法令順守せずに扱われていると思う
- ・法令違反の記憶は法令順守・漠然安心経由で取扱安全感を低下させる
 - 法令順守の徹底で法令違反を無くすことがその原因を取り除く
- ・「考えるのが嫌い」は漠然安心感に影響
 - あれこれ考えないことが漠然安心感を高める
 - 逆に、消費者が色々考えるようになると漠然安心感を低める
- ・法令違反の記憶が強いほど、よく考えるようになる

7.取扱安全感、事件事故の記憶の水準

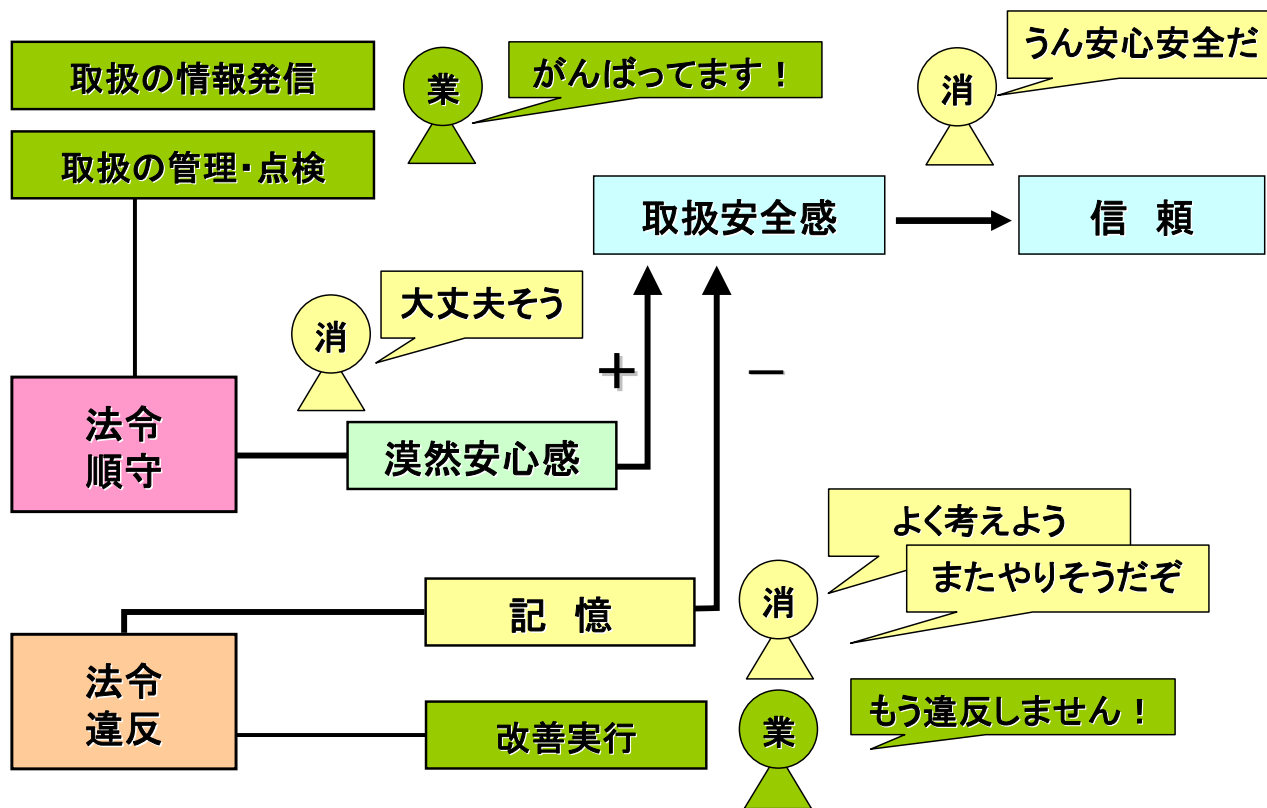
- ・FS主体間で、取扱安全感に格差
- ・取扱安全感、法令順守感
生産者 > 流通加工業者 > 消費者
…消費者の取扱安全感、法令順守感は流通加工業者よりも低い。
これらをどう高めるかが課題
- ・過去の事件事故の記憶
生産者 < 流通加工業者 < 消費者
…消費者は過去の事件事故をよく憶えている

法令違反の影響

- ・一度の法令違反(事件事故)であっても、消費者の記憶に残る
- ・業者が改善実行しても、消費者の記憶はそのまま残る
- ・改善したにもかかわらず、消費者は業者全体が「守っていないのでは？」という疑念を持つ。



信頼確保への道



8.おわりに

- ・消費者の取扱安全感、法令順守感は流通加工業者よりも低い
- ・消費者の取扱安全感を高めることが、安全感の向上につながる
- ・取扱安全感を高めるには、法令順守感を高めるのが効果的
- ・しかし、法令違反の記憶が強いほど、法令順守感は低くなる
- ・違反記憶が強いほど情報精査するので、法令順守感はさらに低下する
- ・従って、消費者の安全感を向上には、違反記憶となる法令違反の事件事故を起こさないことが重要

詳細

- ・「フードシステムにおける生野菜の心理的安全性評価」
『フードシステム研究』35巻、pp2-14、2008.6
- ・「生野菜に対する心理的安全性評価のプロセス」(投稿中)

問い合わせ

高橋 克也 katsuyat@affrc.go.jp